

平成25年度一般会計決算賛否討論

決算特別委員会

(2・3ページ)

平成25年度一般会計歳入歳出決算の審査状況から、主なものをお知らせします。

府中市議会公明党

国内で景況感が回復しつつある中、本決算においては将来の財源確保を視野に入れた堅実な運用への姿勢が見られたほか、市税の収納率向上などにも力を尽くされた。

また、市民協働体制、危機管理体制を新たに強化しており、選択と集中による事業運営など行財政改革を断行し、生活保護、高齢者・障がい者福祉、国民健康保険など社会保障費の更なる増や防災・減災対策、待機児童に係る取組など義務的経費の増に対応された。

府中市議会市政会

平成25年度は、初めて高野市長が当初から予算編成を進めた年であった。

歳入では市税や経常一般財源が増となり、取り崩しを予定していた基金の繰入れを見送るなど、良好な状況となった。歳出ではけやき並木周辺道路の維持管理に係る包括委託を実現しており、全国に先駆けたインフラマネジメント計画の策定による成果と言える。また、第6次府中市総合計画の足掛かりとなる年度として、未来を見据えた施策が展開されており、市長の市政運営は高く評価できる。今後も市政の発展に尽力されることを要望し、本決算に賛成する。

反対討論

生活者ネットワーク

平成25年度は、第5次府中市総合計画の最終年度であり、市政運営の課題を明確にすること求められた年であった。

学校給食センターの建設については、基本計画が示されたが、1日に2万2000食を1・2階に分けて調理、洗浄する前例のない一極集中型の大規模学校給食センターの建設は中止すべきである。

また、府中駅周辺の公共施設の在り方が示されないまま、新たな施設をつくるために府中駅南口再開発事業で床を購入するなど、市民に対する説明責任を欠いた施策が進み、市民への情報公開の在り方にも課題があることから、本決算に反対する。

日本共産党府中市議員

平成25年度は、国の経済政策がもてはやされた年であったが、政策の恩恵を受けた人はごく一握りであり、格差と貧困はますます広がっている。

そのような中、高野市長の初の本格予算として25年度予算が組まれたが、その特徴は行政改革という名の市民サービスの削減と市民の負担増であり、公立保育所の民営化や公共施設の統廃合、手数料・使用料の見直しなどが矢継ぎ早に進められてきた。

地方自治の目的である住民の福祉増進や住民自治の市政運営となっていないため、市民の暮らしに寄り添った市政運営への転換を求め、本決算に反対する。

賛成討論

歳入

法人市民税が増額となった理由は

委員 平成25年度の法人市民税は、補正予算で約21億7000万円の増となった理由は、

また、26年度における法人市民税の歳入見込みを聞きたい。

市民税課長補佐 25年度については、24年12月の政権交代後、国の経済政策の影響から円安に転じたことなどにより、特別法に基づく銀行の為替差益が大幅に生じたため、約19億円の増収があったことが主な理由である。

また、26年度については、景気が回復基調であるため、特別法に基づく銀行からの納税額が高額になるものと予測しているほか、それ以外の法人市民税納税額についても、当初予算の約28億8000万円は上回るものと見込んでいる。

日本中央競馬会からの寄附金金額の推移は

委員 日本中央競馬会から競馬場周辺の環境整備などに活用される寄附金について、金額の推移を聞きたい。

また、市ではこれまで寄附金の増額や活用策の拡大について要望してきたと思うが、要望活動の効果は、

財政課長 金額については、一般会計と公共用地特別会計の歳入を合わせて、平成21年度が9億3778万円であったが、25年度は7億6556万円であった。今後も東京競馬場の売上額の回復がない限り、金額は減少していくものと考えている。

また、効果については、環境整備の対象範囲が拡大したことや環境整備事業の対象が道路拡幅や公園整備などからイベント等のソフト事業に広がったことなどがある。

歳出

次期基幹システム導入に掛かる経費は

委員 平成26年1月から次期基幹システムの導入に伴う準備期間に入ったと理解するが、準備期間及び導入後に掛かる経費がどのようになるか聞きたい。

情報システム課長 25年度についてはデータ移行に関連して1億4000万円程度を計上しており、26年度についても同程度の費用が掛かるものと考えている。

また、26年度には現行のホストコンピュータと27年1月以降の同システムの稼働があるため、25年度とは経費に大きな差がないと考えるが、27年度以降にはホストコンピュータ関連の支出がなくなるため、4、5億円程度下がると想定している。

多磨霊園駅北側広場の整備の経緯と内容は

委員 平成25年度に多磨霊園駅北側広場が整備されたが、その経緯と内容を聞きたい。

土木課長補佐 23年度に同駅から九中通りまでの区間において市道を整備しており、あわせてバス停留所を新設したことにより駅北側広場でのバスの転回が不要となった。同広場は民有地と幅員4mの私道を使用していたため、これを市が取得及び寄付をいたした。25年度に整備を行ったものである。同広場の整備内容について

トワイライトステイ事業予約システム導入の効果は

委員 平成25年度にトワイライトステイ事業の予約システムを導入しているが、効果について聞きたい。

子育て支援課主幹 同事業は仕事等で帰宅が遅い家庭の子どもを午後5時から10時の間、しらとり、高倉保育所で預かるもので、近年の利用実績の伸びに伴い予約受付システムを導入したものである。

導入により、メールによる予約の可否やインターネットで空き状況が確認できるほか、就労している保護者でも昼休み等に予約ができるようになった。

市民のスポーツ実施率向上についての考えは

委員 スポーツの生活化推進事業では、約154万円が計上されているが、支出の内容について聞きたい。

また、市民のスポーツ実施率は現在44・7%であるが、実施率向上についての考えは、生涯学習スポーツ課長補佐 支出の内容は、スポーツの指導者の派遣に伴う謝礼や地域でスポーツ行事を行う際のコミュニケーション協議会への業務委託である。

また、実施率は、目標である60%達成に向け、市民がより多くのスポーツを楽しめるよう事業の充実を図りたいと考えており、市制施行60周年記念事業としてウォーキングイベント等も行う予定である。



▲多磨霊園駅北側広場

は、幅員2mの歩道の整備に加え、同駅からバス停留所までの区間における歩行者の安全を確保するため、広場中央に交通島を設け、横断歩道を設置している。